

生存！

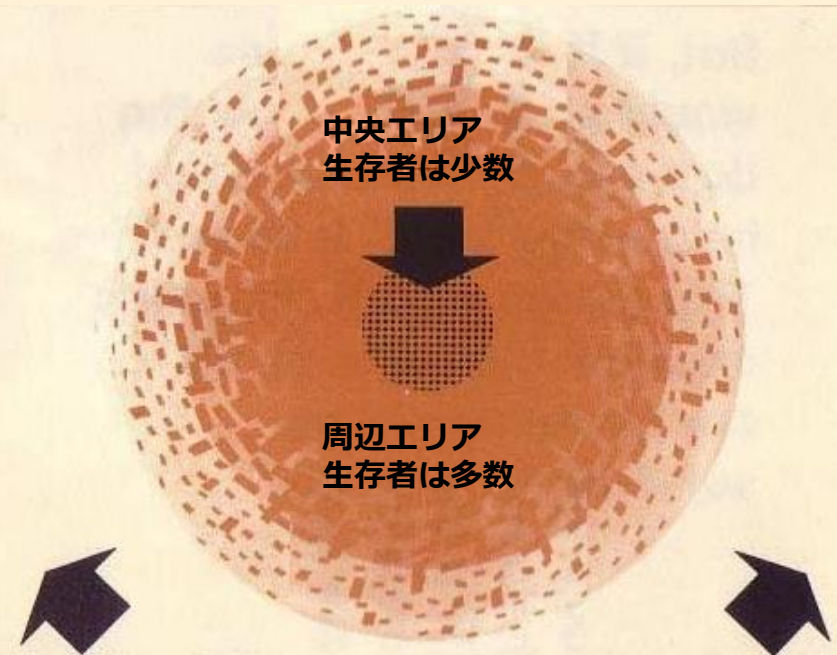
我々は誰もが、核戦争を防ぎたいと思っている。

しかし、核戦争が起きたとき、多くの家族が生き残るのを助けるためにできることと、できないことをすべて知っておく必要がある。

この一連の5つの図は、生存エリアにおける我々の防護についての事実を説明する。

生存エリア

核爆発のパターンは同じでも、被害と死傷者の範囲は、いくつかの要因によって異なる。たとえば、10メガトンの爆弾による、窓の破壊を除く、物的損害の最大範囲は、爆心から32~40kmの範囲である。



このエリアの外側の人々は、この爆発からの爆風や熱の影響を受けないが、風下の場合、放射性降下物に曝される。

危険の兆候

攻撃前



第1段階

予防策を講じるように公式指示が出る。



第2段階

我々の警報体制は、攻撃がこの国に到達する前に警報を発令できるように設計されており、避難行動をとるに十分な時間の猶予がある。

攻撃中

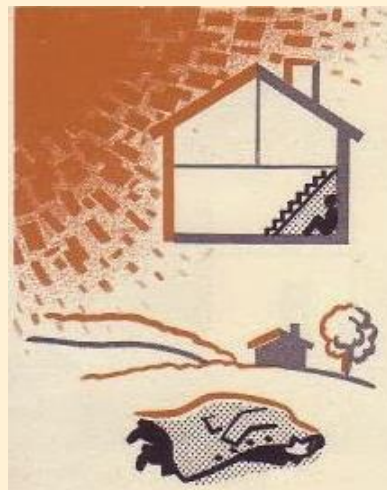


核爆発の閃光は、避難していない人々に対して、熱戦、爆風、放射性降下物など、他の起こり得る危険に対する即時に防護行動をとることを求める警報である。

攻撃後

放射性降下物の接近と場所についての警報が発令される。

熱線の即時の危険



火傷防止

- 物陰にいれば防護される。
- 隠れるか、固い物の背後に。
 - 隠れられる影がない場合は、自分の服でカバーする

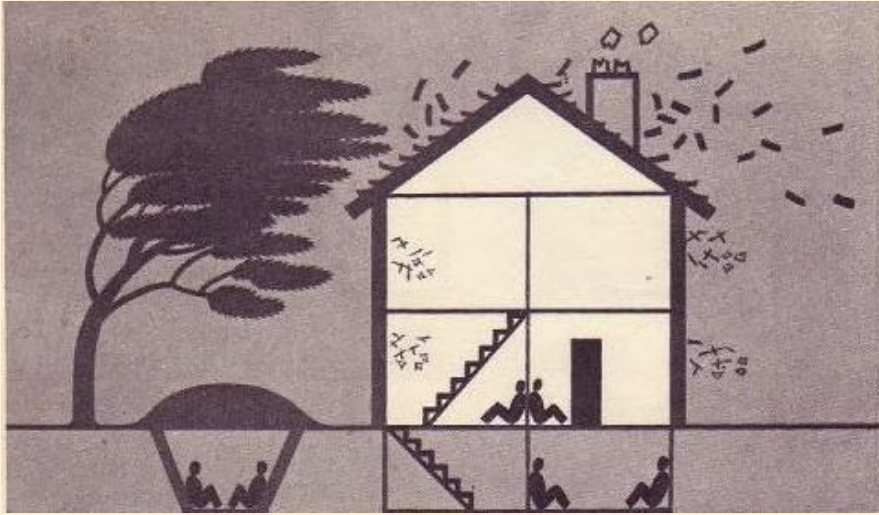
防火

家屋火災を防ぐように求められた場合、危険の最初の兆候で建物を防護できるようにする。

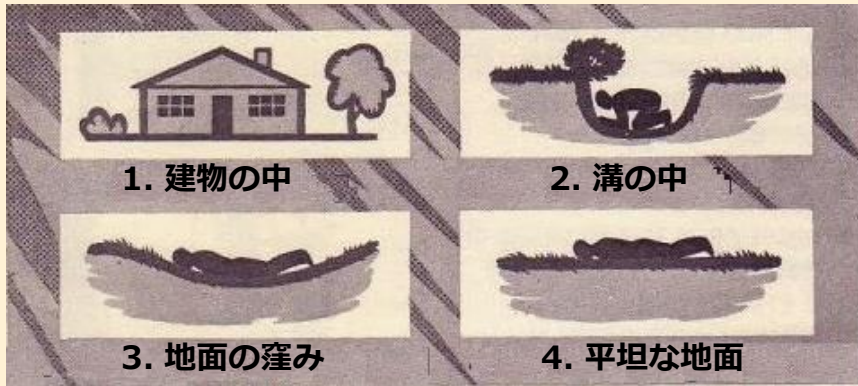
- 熱線を防ぐために窓を白くする。
- 強い熱にさらされた場合に容易に燃えるすべての資材を撤去あるいは防火品にする。
- 家の中で、簡単な消火手段を用意する。



爆風の危険



爆風は熱線の後にやってくる。サイレン警報で、熱線と爆風の両方から身を守る時間の猶予が得られる。飛散物を避けるため、なるべく屋内のできるだけ低い場所を選ぶ。

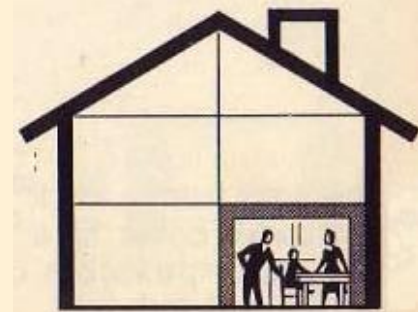


田舎の屋外では、飛散物が少ないので、弱いカバーでも十分な防護になる。

遅延放射性降下物？



避難部屋で我々と塵の間の距離をとれる。我々と塵の間の高密度の物質で、放射能が減衰するまでの時間をかせぐ。これらの3つの安全要素はすべて、放射性の塵から放出される放射線を弱める。



到来の警報が発令される。

行動：出てよりと知らされるまで、避難部屋にとどまる。